

# あいいくだより



## こどものしつけ



5月5日は「こどもの日」です。こどもの日は「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」と定められた国民の祝日です。大人は子どもの健やかな成長を願い、子どもは母親に「産んでくれてありがとう」という感謝の気持ちを持ってお祝いするのが「こどもの日」です。そこで、今月号では子どもと過ごす上で大切な、しつけについて今一度、考えてみましょう。

### 子どものしつけって難しい。しつけるうえで大切なことって？

子どものしつけに悩む方は珍しくありません。しつけに唯一絶対の正解はなく、だからこそさまざまなしつけが紹介され、時代に応じて主流の考え方も変化し、ときにはブームに近い状態になる場合もあります。しつけは、子ども1人ずつに合わせた形で行うのが理想ですが、抑えるべきポイントや注意点もあります。今回は、年齢別に子どものしつけのポイントや注意点を解説するので、参考にしてください。



### 0～3歳のしつけのポイント

0歳から3歳までの子どもは、まだなかなか自分の行動をコントロールできません。快・不快を現すために、ところかまわず泣いたり騒いだりします。

しかし、この時期でも早寝早起き、食事やおやつ、お風呂や歯磨きなどを、毎日同じ時間に繰り返して習慣付けることは重要です。少しずつ、子どもは毎日の生活習慣を覚えていきます。親が規則正しい生活をするお手本を見せると、子どもも自然と真似します。

また、自分の気持ちを言葉にするような声かけをしていくといいでしょう。泣いていたら、「何がしたいの？」と聞いてあげるといいですね。

### 3～6歳のしつけのポイント

イヤイヤ期を抜けた3歳後半から4歳頃になると、子どもも分別がついてきます。多くの子どもが保育園や幼稚園に通い出す頃には、社会性も身に付いてくるでしょう。この頃から、簡単なルールや約束ごとを守れるようになります。コミュニケーション力も発達してくるので、しつけを始めるには最適な時期です。お手本を見せながら、毎日のあいさつやありがとう、ごめんなさいなどが言えるように、根気強く伝えていきましょう。

大切なのは、うまくいかなくても過剰に叱りつけないことです。最初からうまくできる子どもはなかなかいません。何度も繰り返し、習慣付けることが重要です。

## 6月のわくわくサークル「わらべ歌」

日時：令和6年6月26日（水）

10:00～11:30

場所：西庄公民館1階和室



SAKAIDE\_AIKUKAI

愛育会のInstagram